

コロナ禍におけるオンライン単位認定試験実施についての検討

－準備から実施までの評価－

A Study on Credit Accreditation through Online Exam Under the Covid-19

－ Evaluation From Preparation to Implementation －

垣内 いづみ*¹

Izumi KAKIUCHI

要旨

新型コロナウイルス感染拡大期において単位認定試験を初めてオンラインで実施した。実施方法を検討し、学生への説明・試験準備・試験実施まで全てをオンラインで行った。そこで、準備から実施までの経過を報告すると共に、同意が得られた51名の学生へのアンケート調査の結果をふまえて、オンライン単位認定試験の準備から実施までの評価を報告する。

今回のオンライン試験ではMicrosoft office365のメールソフトOutlookを使用した。事前準備として、試験をオンラインで実施することと実施方法について学生にメールにて説明した。試験内容は提示したテーマについて根拠を基に自分の考えを論述するという出題形式とし、試験当日は、指定時刻に試験問題を学生に一斉メール送信し、教員は学生からの質問に対応できるようパソコンの前にて待機した。成績評価後に実施したアンケート調査では、ほとんどの学生がオンライン試験に対して理解を示しており、最小限の不安があったもののスムーズに試験を受けることができたと感じていることが明らかとなった。また学生側の事前の準備・事前の説明・実施について、今後のオンライン試験実施に向けて参考となる重要な点が明確となった。今回実施したオンライン単位認定試験は、コロナ感染拡大期においても登校せずに試験を実施し単位認定するひとつの方法として有効であった。ただし、急な状況でもオンライン授業やオンライン試験の対応ができるよう、常日頃から準備が必要である。

【キーワード】 オンライン試験 コロナ禍 遠隔試験 COVID-19 定期試験

1. はじめに

2022年1月、県内では新型コロナ感染者が急激に増え始め、1日の感染者が100人を超え、その後2週間程度であつという間に300人台を超えるという状況であつた¹⁾。そのような状況下で翌月に国家試験を控えている3年生の必修科目である「医療安全管理」は全15コマを対面授業、1コマを単位認定試験の予定であつた。例年は12月までに単位認定試験が終了し、それ以後は国家試験対策に集中できる時間割が組まれているが、2021年度はコロナの影響により臨地実習が後ろにずれ込んだため、医療安全管理の講義が1月にずれ込むという状況が発生していた。地域内で感染者が増加する中、感染予防行動をとりながらも、いつ休校となるか先の見えない状況での対面授業であつた。そのような状況の中で学内でも感染者が出始め、クラス内には

濃厚接触者も出始めた。学生からも対面授業をすることに対する不安の声も聞かれ始め、最終講義はオンラインで実施となり、単位認定試験も通常のように教室内で実施することはリスクが高いと判断し、急遽オンライン試験の実施について検討することとなった。オンラインでの試験実施に関しては、まだ報告が少ないため直接参考とできるものがない状況であつた。また、国家試験を目前に控えているということもあり、学生に必要な以上の負担をかけず実施できるよう配慮する必要があつた。このような経過のなかで、初めてのオンラインでの単位認定試験を滞りなく実施できたので、準備から実施までの経過を報告し、アンケート調査による学生からの振り返りを含めて評価することとする。今後も予測される感染拡大時におけるオンライン試験実施のひとつの方法として提示する。

*1 松本短期大学講師，松本看護大学講師

2. 目的

オンライン単位認定試験の準備から実施までの評価を行う。

3. 方法

1) 調査期間

2022年1月

2) 対象

医療安全管理を履修した学生52名のうち、調査への参加の同意が得られた51名を研究対象とした。

3) 調査内容

オンライン試験実施までの経過の振り返りと共に、下記の3点について試験実施後のアンケート調査により学生の評価を調査する。

- (1) オンライン定期試験の準備内容
- (2) オンライン定期試験の実施内容
- (3) オンライン定期試験方法

4) 分析方法

対象者へのアンケート調査の結果をExcelにて単純集計し、アンケートの自由記載の内容を合わせて評価した。

4. 倫理的配慮

本研究は松本短期大学研究倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号202106)。対象者には、成績評価終了後に研究への協力依頼を行った。アンケート調査への参加は自由意志であること、参加をしないことで不利益は生じないこと、途中でも取りやめることができること、匿名性を確保しプライバシーの保護に努めること、得られたデータは厳重に管理し研究終了後に消去することを口頭と書面により説明し、同意書に記入することで同意を得ることとした。

5. 結果と考察

1) オンライン定期試験の準備について

(1) 試験方法の検討

対象は国家試験を翌月に控えている学生であること、また単位認定試験の日程が迫っていたことにより、可能な限り早く方法を決定する必要があった。教員も学生も初めてのオンライン試験の実施であったこと、国家試験前の学生に対して精神的な負担を最小限とすること、適切な評価ができる内容の試験であることを軸として、試験の実施方法と内容について検討した。そこで、利用できるツールとして、学内で教職員と全学生に導入されていたMicrosoft office365のメールソフトOutlookを利用すると決定した。試験内容については、例年のように知識と考えを問う出題形式では、自宅受験では教科書や

ノートを見て解答することが可能となってしまう適正評価ができないと判断した。そこで、与えられたテーマに対して根拠を示しながら自分の考えを論述するという出題形式とすることとし、答案用紙に解答したのち、メールに添付して返信してもらうという方法で実施することを決定した。試験時間は通常90分以内であるが、解答後の提出に余裕を持たせるため、試験開始から提出までを2時間20分と設定した。

(2) 学生への説明

オンライン試験の実施と方法が決まり、すぐに対象学生全員宛に単位認定試験をオンラインで実施する旨を説明するメールを送信した。(資料1)

資料1: オンライン試験実施についての学生への通知メール

医療安全管理を履修している学生の皆様

1月28日(金)2限目に医療安全管理の試験が予定されておりますが、コロナ感染拡大の状況を考慮し、オンラインでの試験実施と致します。当初、お伝えしていた試験形式とは異なり、こちらで提示するテーマについてのレポート提出としたいと思います。皆さんの国家試験の勉強の妨げにならないような試験としたいと考えております。

試験実施方法についてお伝えします。重要ですから熟読してください。

1月28日(金)

10:40にレポートのテーマをOutlookにてメール送信します。そのテーマについて添付した解答用紙(Word)に指示に従って入力し、解答用紙をメールに添付して返信してください。内容は、今まで学んだことや講義の内容をふまえて自分の考えを述べるようなものにします。ノートや教科書等、何を参考にしても良いです。**返信期限は1月28日(金)13:00**です。あくまでも試験ですので返信期限は厳守です。期限を過ぎたものについては試験欠席の扱いとなります。

本日の夕方、テストメールを送信します。受信した添付ファイルに入力して返信する方法を必ず確認しておいてください。

この方法での受験が不可能な学生については、明日12時までにメールにてご連絡ください。

(3) 事前練習

教員も学生も不安があったため、事前(試験2日前)に試験メールを送信した。(資料2) 学生は

実習記録などで Word は使い慣れているが、メールを送信する、ファイルを添付して送信するということには慣れていないと考え、必要な学生はテストメールにてファイルを添付してメール送信する練習を実施できるようにした。その結果、対象学生 51 名のうち 18 名がテストメールを送信してきた。正しく送信できたことを学生自身が確認できるよう、テストメールを送信した学生全員にメールにて返信した。

資料 2：事前テストメール

これは医療安全管理試験をオンラインにてスムーズに実施するためのテストメールです。
このメールを受信して、添付ファイルを開き、返信用の用紙をダウンロードできるか確認してください。そして、そこに試験の解答を入力したものをメールに添付して垣内宛に送信する方法を確認してください。
心配な人は、このメールに添付した試験問題用紙に氏名を入力したものをメールに添付して垣内宛に返信してみてください。
心配ない人は、このテストメールへの返信はしなくて良いです。
Teams ではなく、Outlook のメールに添付して送信してください。

(4) 前日連絡

試験前日には最終確認メールを送信した。(資料 3)

資料 3：前日の最終確認メール

医療安全管理履修している皆様へ

明日 (1 月 28 日) 2 限目の医療安全の試験はオンラインで実施致します。何回もお知らせのメールを送信しておりますがこのメールが最終確認です。

1 月 28 日 (金) 10 : 40 試験問題を Outlook のメールにて一斉送信します。

試験問題と解答用紙は Word の文書にて添付しますので、指示に従って入力し、解答用紙をメールに添付して返信してください。試験の内容は、基本的には今まで学習したことや講義の内容をふまえて自分の考えを述べるようなものにします。ノートや教科書など何を見て解答していただいても良いです。

返信期限は 1 月 28 日 (金) 13 : 00 です。

あくまでも試験ですので、返信期限は厳守です。期限を過ぎたものについては、試験欠席扱いとなります。

昨日の夕方、試しメールを送信しております。受信した

添付ファイルに入力して返信する方法を必ず確認しておいてください。不安な方は一度試験的に私にメール送信ください。試験的なメール送信は本日 18 時までであれば、返信しますが、それ以後は対応できませんのでご注意ください。

(5) 試験実施

Word にて作成した試験問題をメールに添付し、試験開始時刻に学生に一斉送信した。(資料 4) 指定時間に確実にメール送信されるよう、事前に試験開始時刻に自動的に送信されるよう予約送信とした。試験中の質問はメールにて受け付けることとしていたため、教員はパソコンの前にて待機した。

資料 4：試験開始メール

ただいまより「医療安全管理」の試験を実施します。添付ファイルをダウンロードし、解答を入力し、再度添付して返信してください。

解答の返信受付締切は本日 13 : 00 です。これより遅れた場合は、未受験の扱いになります。

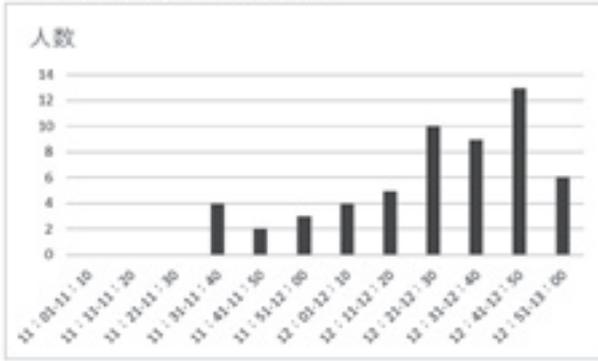
試験時間中 (10 : 45 ~ 12 : 15) に試験問題について質問がある場合はメールにてご質問ください。

このメールは Bcc にて同時に全員に送信しています。このメールに返信した場合、回答用紙が誤って他の学生に送信されることはありません。

では試験を開始してください。

試験開始後、最初の解答用紙が送信されてきたのは 52 分経過したときだった。以後、徐々に解答用紙が送信され始めた。解答用紙の提出時刻分布を (表 1) に示す。送受信トラブルを回避するために、また学生の不安が残らないことを目的として解答用紙の受信が確認できたことを学生にリアルタイムで返信した。学生によっては、「ちゃんと送信できていますでしょうか」とコメントを付けて解答用紙を送信してきた学生もいた。また、一旦解答用紙を提出したのちに、誤字脱字・文字数などのチェックをしてから再送信 (再提出) してきた学生もいた。試験前に、添付ファイルの送信に強い不安を抱いていた学生も、解答用紙をメール添付し返信できていた。試験開始 2 時間 19 分後 (提出締め切り 1 分前) に最後の学生からの提出があり、無事に全員の解答用紙が提出され試験は終了した。

表1 解答用紙提出時間と人数



(6) 実施後の振り返り

試験終了から16日後、成績評価終了後にアンケート調査用紙(資料5)を配布し、オンライン試験実施の準備・実施について学生の反応をきいた。アンケート調査の結果を以下に述べる。

資料5: アンケート調査用紙

コロナ禍における「医療安全管理」オンライン定期試験に対する学生の評価

1. 性別をお知らせします。
 1. 男 2. 女

2. オンライン定期試験の準備についてお伺いします。該当する番号に○印をつけてください。

感染対策のためのオンラインでの定期試験となったことについて理解していましたか?
 1. 理解していた 2. まあまあ理解していた 3. あまり理解していません 4. まったく理解していません

オンライン定期試験についての説明はわかりやすかったですか?
 1. わかりやすかった 2. まあまあわかりやすかった 3. 少しわかりにくかった 4. とてもわかりにくかった

普段からOutlookなどのメール送受信は利用していますか?
 1. よく利用している 2. たまに利用している 3. あまり利用していない 4. ほとんど利用しない

普段からメールの添付ファイルを使用していましたか?
 1. よく利用している 2. たまに利用している 3. あまり利用していない 4. ほとんど利用しない

オンラインで試験を受けるにあたり準備したことは何ですか? [複数回答可]
 1. 何もなかった 2. パソコンはOutlookを設定した 3. メール送受信の練習をした 4. 添付ファイルをつけてメール送受信の練習をした 5. 普段にテストメールを送信した

オンライン試験を受けるための準備に必要な時間は充分ありましたか?
 1. 充分あった 2. 少し足りなかった 3. 全然足りなかった

オンライン試験を受けるための準備の段階で不安なことはありましたか?
 1. 不安はなかった 2. 少し不安だった 3. 頻りに不安だった 4. とても不安だった

3. オンライン定期試験の実施についてお伺いします。該当する番号に○印をつけてください。

オンライン定期試験をどこで受けましたか?
 1. 学校 2. 自宅 3. 友人宅 4. その他

オンライン定期試験を受けるために使用した機器は何ですか?
 1. パソコン 2. タブレット 3. スマートフォン 4. その他

オンライン定期試験は集中して受けることが出来ましたか?
 1. 集中できた 2. まあまあ集中できた 3. あまり集中できなかった 4. 集中できなかった

オンライン定期試験の間、質問するのに困ったことはありましたか?
 1. なかった 2. あった(具体的に)

解答用紙の提出はスムーズにできましたか?
 1. できた 2. 少し手間取った 3. わりと手間取った 4. とても大変だった

解答用紙の提出について心配なことはありましたか?
 1. 心配はなかった 2. 送付できているか少し不安だった 3. 送付できているかとても不安だった

4. 今回のオンライン定期試験についての感想をお聞かせください。[試験内容ではなく試験方法について]

①オンライン定期試験の準備について

感染対策のためオンラインでの定期試験となったことについての理解について(表2)に示す。「理解していた」と回答したのが48名(94%)で「まあまあ理解していた」と回答したのが3名(6%)であった。「理解していなかった」と回答した学生はいなかった。地域での感染拡大がある中で、講義の中でもいつオンライン授業に切り替わるかわから

ないこと、試験をオンラインで実施することになる可能性があることを学生には伝えていた。コロナ感染拡大により登校することに強い不安を抱えていた学生も多く、今回のオンラインでの試験実施については理解が得られた上で実施できたと考える。

表2: オンライン試験への理解

1. 理解していた	48
2. まあまあ理解していた	3
3. あまり理解していなかった	0
4. 全く理解していなかった	0

オンライン試験の説明について(表3)に示す。「わかりやすかった」と回答したのが43名(84%)で「まあまあわかりやすかった」と回答したのが8名(16%)であった。「わかりにくかった」と回答した学生はいなかった。全ての説明がメールでの説明であったため、どの程度理解されているか不安はあったものの、初回説明のあと、複数回にわたりメールで通知したことで十分な理解を得られたと考える。

表3: 説明はわかりやすかったか

1. わかりやすかった	43
2. まあまあわかりやすかった	8
3. 少しわかりにくかった	0
4. とてもわかりにくかった	0

Outlookなどのメール送受信利用状況については「よく利用している」と回答したのが30名(59%)、「たまに利用している」と回答したのが16名(31%)、「あまり利用していない」と回答したのが3名(6%)、「ほとんど利用していない」が2名(4%)であった。(表4)

コロナ禍におけるオンライン授業を想定し、本学学生にoffice365のIDが配布されたが、当初はまだ感染者も少なく、学生が使用する機会もほとんどなかった。そのため、学生はOutlookやメールを十分に使いこなしているとは言えない状況であった。

表4: 普段からOutlookなどのメール送受信を利用しているか

1. よく利用している	30
2. たまに利用している	16
3. あまり利用していない	3
4. ほとんど利用していない	2

また普段からメールの添付ファイルを使用しているかの問いに対しては「よく利用している」22名(43%)、「たまに利用している」19名(37%)、「あまり利用していない」8名(16%)、「ほとんど利用していない」2名(4%)であった。(表5) 学内にoffice365が導入されてからも、レポート提出な

どをファイルにて提出する機会は殆どなく、今回の試験にて初めてファイルを添付してメール送信するという経験をした学生もいた。実習記録やレポートを Word で作成することには慣れているが、それを印刷して提出していたので、フィルの添付を必要とする経験はなかったようである。

表5：普段からメールの添付ファイルを使用しているか

1. よく利用している	22
2. たまに利用している	19
3. あまり利用していない	8
4. ほとんど利用していない	2

オンライン試験を受けるにあたり準備したことについては「何もしなかった」14名(27.5%)、「パソコンに Outlook を設定した」11名(21.5%)、「メールの送受信の練習をした」13名(25.5%)、「添付ファイルの送受信の練習をした」12名(23.5%)、「教員にテストメールを送信した」18名(35%)であった。(表6) 何の準備もしなかったのは27.5%のみで、それ以外の学生はなんらかの準備が必要だった。Outlook は通常スマートフォンに設定している学生が多く、パソコンには設定していない学生が一定数いることも明らかとなった。またメールの送受信や添付ファイルの取り扱いについても練習が必要な学生が一定数いた。「メールの送受信が不安な人もいる中で、前日にテストメールを設けてもらったことがよかった」という声が聞かれており、事前の練習により確実に送受信できることを確認しておくことは有効であった。

表6：遠隔試験で準備したこと(複数回答可)

1. 何もしなかった	14
2. PCにOutlookを設定	11
3. メール送受信の練習	13
4. 添付ファイル送受信の練習	12
5. 教員にテストメール	18

準備に必要な時間については「充分あった」48名(94%)、「少し足りなかった」3名(6%)、「全然足りなかった」と回答した学生はいなかった。(表7) オンラインでの試験実施が決まってから試験実施までの期間は4日間と短い中で、「準備時間が少し足りなかった」と回答した3名については、いずれも Outlook はたまに使用する、メールの送受信の練習をしたと回答しており、いくつかの項目において不安を回答していた。また、3人のうちの1名は、解答用紙の提出に少し手間取ったと回答している。慣れていない学生にとっては、十分な準備期間が必要で、十分な準備をすることで最小限の不安で試験を受けることができると考える。

表7：準備の時間

1. 充分あった	48
2. 少し足りなかった	3
3. 全然足りなかった	0

試験を受けるための準備の段階での不安については「不安はなかった」29名(57%)、「少し不安だった」20名(39%)、「割と不安だった」1名(2%)、「とても不安だった」1名(2%)であった。(表8)

ある学生は、ファイルを添付してメール送信ということがわからないと直接相談に来た。元々パソコン操作が得意な学生ではなく、とても強い不安を示していたので、その学生については、「メール添付がわからなければ、手書きまたはワープロ打ちした解答用紙をスマートフォンで写真に撮って送信しても良いと伝えた。十分な準備期間がない中では、このように皆と同じ方法での対応が難しいとする学生には、個別の対応も必要なこともある。その時は、その学生が実施可能と思われる方法を選択して提示することも必要となる。しかし、事前の質問等にはすぐに解答するようにしたことで、学生からは「質問についてすぐに対応してもらえたので良かった」という声が複数からきかれ、準備段階で学生の不安を取り除くよう丁寧な対応が必要と思われる。

表8：準備の不安

1. 不安はなかった	29
2. 少し不安だった	20
3. 割と不安だった	1
4. とても不安だった	1

②オンライン単位認定試験の実施について

オンライン試験を受けた場所は「学校」が1名(2%)、「自宅」が50名(98%)であった。(表9) 学校で受験した学生は、自宅にWi-Fi環境が整っていない学生であった。このように、自宅のネット環境が整っていない学生の試験を受ける場所についての配慮も必要である。

表9：試験を受けた場所

1. 学校	1
2. 自宅	50
3. 友人宅	0
4. その他	0

試験を受けるために使用した機器は「パソコン」29名(57%)、「タブレット」1名(2%)、「スマートフォン」19名(37%)であった。パソコンとスマートフォンの両方を使用したという学生が2名(4%)いた。(表10) 学生は実習記録等でパソコンの使用に慣れているので、ほとんどの学生がパソ

コンを使用すると予測していたので、実際にはスマートフォンの利用が多かったのは想定外だった。準備の段階で、パソコンに Outlook の設定をしたという学生が 11 名おり、日常的にスマートフォンで Outlook メールを送受信をしていたことがわかった。日常的な連絡メールはスマートフォンでも不便はないが、オンライン授業や試験、レポート提出をすることを前提と考えると、やはり Outlook はパソコンにも設定しておくことは平常時から準備が必要と考える。

1. PC	29
2. タブレット	1
3. スマートフォン	19
4. その他	2

試験への集中については「集中できた」35名(68.5%)、「まあまあ集中できた」12名(23.5%)、「あまり集中できなかった」3名(6%)、「集中できなかった」という学生はなかった。(表11) 学生は日々、模擬試験を中心とした国家試験対策を受けており、試験に対する集中力が身に付いていることが大きく影響していたと考える。アンケートからも「感染対策としての遠隔定期試験でしたが、レポート形式ということもあり集中して臨むことができた。」という学生の声が聞かれた。自宅でのオンライン試験という初めての状況であっても、ほとんどの学生が集中して試験を受けることができたと考える。そのような中でも、あまり集中できなかったという3名の学生については、準備から実施まで特に不安を抱えていた学生ではなかったことから、説明不足などが集中力に影響していたとは考えられない。

1. 集中できた	35
2. まあまあ集中できた	12
3. あまり集中できなかった	3
4. 集中できなかった	0
回答なし	1

試験中の質問については全員が「困らなかった」と回答した。(表12) 実際に、試験中に学生からの質問は1件もなかった。

1. 困らなかった	51
2. 困った	0

解答用紙の提出については「スムーズにできた」42名(82%)、「少し手間取った」8名(16%)、「割と手間取った」1名(2%)、「とても大変だっ

た」と回答した学生はいなかった。(表13)「オンライン試験となったけれど、先生からの指示やテストメールがあったので、スムーズにテストを受けることができた」という声が聞かれており、事前の指示や準備がスムーズに試験を実施できたことにつながっていたと考える。「割と手間取った」と回答した1名は、日頃から Outlook でのメールの送受信、添付ファイルの取り扱いをほとんどしていない学生であった。添付ファイルの送受信の練習をして臨んだが、試験前から「とても不安だった」と回答しており、実際に解答用紙の提出もとても大変だったようである。少数ではあるが、パソコンの扱いに慣れていない学生は必ずおり、個別の対応も欠かせない。

1. スムーズにできた	42
2. 少し手間取った	8
3. 割と手間取った	1
4. とても大変だった	0

解答用紙の提出について「心配なかった」35名(49%)、「少し不安だった」15名(29%)、「とても不安だった」1名(2%)であった。(表14) 学生からは「オンラインで試験を受けることは初めてでしたが準備されていてわかりやすかった」「丁寧に準備してもらえたので、不安なくスムーズにできた」「わかりやすい説明で不安なく試験が受けられた」という声がきかれた。ここでも準備の大切さが明確となった。

1. 心配なかった	35
2. 少し不安	15
3. とても不安	1

以上のことから、初めて実施したオンライン単位認定試験は、概ね成功だったと考える。試験の代わりにレポート提出という形で単位認定することもできたかもしれないが、決められた時間内で問題に取り組むことで、今回実施した論述形式の試験は学習の習熟度を測定する上では有効であったと考える。アンケートの自由記載では「国家試験を控えてコロナ感染の方が心配だったので、リモート試験という配慮はすごくありがたかった」「感染対策としてのリモート定期試験でしたが、レポート形式ということもあり集中して臨むことができた」というコメントがあり、初めての方法に対する不安よりも感染予防としての安心感を得ることができたのではないかと考える。内閣府が2020年の5月と12月に実施した「オンライン教育(授業)に対する希望調査」²⁾によると大学生ではオンライン授業を希望する

割合は、第1回調査では60.8%、第2回調査では61.3%となっており、オンライン授業の意向は相対的に高いことが示されている。感染に対する不安を抱えながら日々の授業に臨んでいる学生の思いがうかがえる。

試験時間の設定については余裕を持たせることが必要である。初めての試みであったので、提出時間はかなり長めに設定していたが、実際は試験開始90分後～締め切り時間までに提出した学生が多数であり、想定していたよりも締め切り時間に迫っての提出が多かった。学生は、日常的に使用しているスマートフォンには慣れているがパソコンの操作については慣れていない学生も多いことも判明した。

今後、メール送信やオンライン授業に慣れていく中で、これらの時間設定は短縮できると考えられるが、その時の学生の状況に応じてゆとりのある時間設定の検討が必要である。

6. 結論

今回、オンライン定期試験の実施は、説明から実施までのすべてをオンラインで行うことができた。コロナ感染拡大期においても登校せずに試験を実施し単位認定する方法のひとつとして有効であった。オンライン試験を実施するには事前の準備と説明が重要であることが明確となった。

学生側の事前の準備として重要なのは以下の2点である。

- ① 平常時よりメールの送受信とファイルの添付に慣れておく
- ② Outlook はスマートフォンだけではなく、パソコンにも設定をしておく

教員から学生への説明について重要なのは以下の2点である。

- ① 全学生が理解できるよう繰り返し丁寧な説明が必要
- ② 理解困難な学生については個別の対応が必要

実施について重要なのは以下の3点である。

- ① パソコン等の取り扱いに不慣れな学生、タイピングが遅い学生でも不利益にならないよう、ゆとりを持った時間設定が必要。
- ② 質問はリアルタイムに対応できるよう、試験時間中は常に対応可能な状況で待機することが必要。
- ③ 解答用紙の提出を受信したら、何らかの形で解答用紙を受け取ったことを伝えることが望ましい。

7. 今後の課題

今後も継続すると思われるコロナ禍においては、いつでもオンライン授業・試験が実施できるように、準備をしておくことが重要である。

今回のオンライン試験の試みは、統合科目であったこともあり、知識を問うというよりも、考え方を問う意味合いが強い科目であったため、記述形式の試験での対応も可能であったが、知識の習熟度を評価する意味合いが強い科目でオンライン試験を実施するには、多くの課題が残されている。

今回のオンライン試験は急な決定であり準備時間が限られていたこともあり論述形式の試験としたが、犬飼ら³⁾はオンライン定期試験の実施について選択式・記述式いずれの方法であっても「学習効果を保ちつつ、各学生の当該科目の習熟度を客観的な指標で測定することが可能である」と述べている。溝口⁴⁾も「オンラインテストを主要な成績評価の手段として、厳密な成績評価を実現する1つの手段として継続的に使用するのが可能である」と述べている。しかし、一方で様々な制約も生じることが考えられる。犬飼ら³⁾は制約ある中でのオンライン試験の実施では「学生に不利益が生じないような問題作成をした結果、例年よりも問題が易化する」としつつ「受講生の学習効果を保ちつつ、各学生の当該科目の習熟度を客観的な指標で測定することが可能である」と述べている。

いずれにしても、急な状況でもオンライン授業やオンライン試験の対応ができるよう、常日頃から準備が必要である。実際に「コロナ禍でオンラインでの授業や試験をもっと増やしてほしい」「コロナ対策として他教科でも活用してほしい」というアンケートへの記載もあった。教員も慣れていないため、オンライン授業や試験に対しては消極的となりがちではあると思うが、対面授業が可能な時期においても、オンライン授業の実施、またオンラインでのレポート提出など、学生が慣れるための積極的な準備をすることが重要である。

(引用参考文献)

- 1) NHK：長野県の新型コロナデータ
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/pref/nagano.html> (2022.9.23)
- 2) 総務省：データで見る遠隔・オンライン教育の状況。
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd122230.html> (2022.12.1)
- 3) 犬飼佳吾、中村友哉：オンライン定期試験実施の実施方法に関する一考察、明治学院大学産業経

済研究所年報. 37 巻. 61-69. 2020

- 4) 溝口佳宏：オンラインテストは期末試験として継続利用できるか？. 帝京大学ラーニングテクノロジー開発室年報第 10 巻. 93-100. 2013